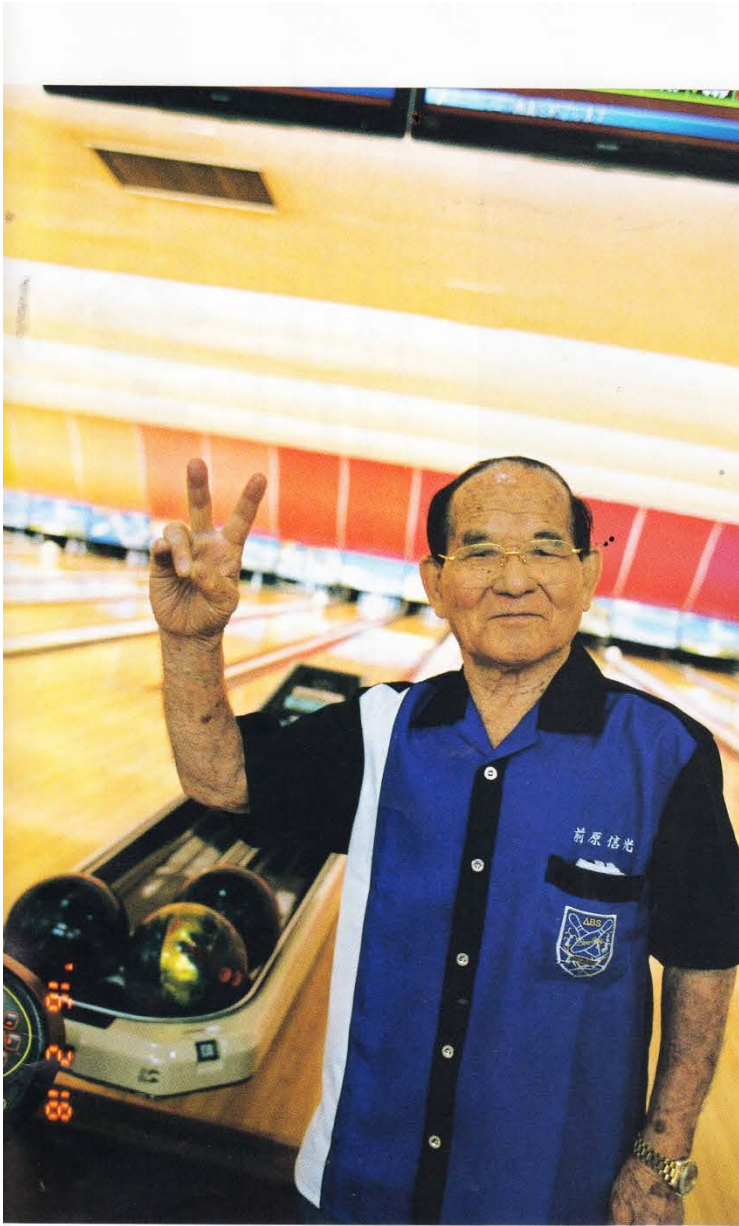


100歳のボウラー

100歳のボウラー 前原信光さん (沖縄県沖縄市)

まえはら・しんこう / 1915年(大正4年)、沖縄県今帰仁村で生まれます。23歳のときにサイパン島へ移り、終戦間際に現地召集。昭和21年、沖縄に帰還します。その後カツオ漁や商店経営に従事し、45歳でプロパンガス会社を設立。沖縄の経済復興とともに会社を成長させ、創業30年の平成2年に「ひまわりガス」に改称、83歳で会長職に退くまで経営の第一線で活躍されました。

正道と健康 前原信光



14・5ポンドのボールがわずかにカーブしながら中心へと向かっていきます。ガシャーン。最後のピンがゆっくりと倒れ、この日初めてのストライクが決まると、前原信光さんは仲間たちとハイタッチ。そして笑顔でピースサインを向けてくれました。

44歳からボウリングを始めた前原さんは、百歳を越えたいまま、毎週木曜日の朝7時から始まる「お早うリーグ」に欠かさずに参加。週1回、1日3ゲームをこなしていますが、このリーグ戦のみならず、ほとんど毎日プレーされているそうです。

「耳が遠い以外は、どっことも悪くない」と元氣な前原さん。その秘訣を伺うと、「恋よ。男も女も、恋する気持ちを持ち続けること。そうすればいつまでも若いさ」と笑いながら答えてくれました。

そんな前原さんが習慣にしているのが、菌みがきと手洗いだと言います。日に何度も行ない、汗をかいたら下着もすぐに替え、常に清潔にしています。

「小さい頃は貧乏で、飯を腹いっぱい食べたことがなかった。夜、ひもじさで目が覚めると、水瓶の水を飲んでまぎらわしました。下着も1枚しかなかった。それでも人間は、貧乏してはじめて成功するんです。私はそう思います」

一代で会社を興し、成功させた前原さん。

「沖縄に『誠の上に矢は立たない』(正直者には弓矢が当たらないの意)という言葉があります。正直と健康、これが私の信念ですよ」

